

前橋赤十字病院だより

# HAKUAI +

[はくあい プラス]

Japanese Red Cross Maebashi Hospital

特集

## ミャンマー人特定技能人材の 受け入れにむけた当院の取り組み

〈救急最前線より〉「心」の急病を支える：精神疾患と救急医療の架け橋  
〈健康学〉アスパラガス

TAKE FREE

vol.

85

2026  
spring



みんなにとってやさしい、頼りになる病院

前橋赤十字病院

# ミャンマー人 特定技能人材の 受け入れにむけた 当院の取り組み



ミャンマーから看護助手を  
迎えることになりました

研修のあとに  
みんなで  
ハイポーズ!



前橋赤十字病院では、看護助手の人手不足を解消するため、  
2026年1月、新たにミャンマーから8名の職員を迎え入れました。  
昨今、看護助手の有効求人倍率は4.13倍(厚生労働省 2023年度調査)と高い水準が続いており、  
日本人のみでの確保は難しい状況が続いています。  
こうした背景から、派遣費用の増加を抑え、直接雇用による経営の安定化と現場の負担軽減を図るため、  
「特定技能制度」を活用した人材の受け入れを決定しました。  
仏教文化の中で育ちはぐくまれた敬老の心や  
高い向上心を持つ若者が多いといわれるミャンマーの方々を迎えることで、  
院内に新しい風が吹くのを感じながら持続可能な医療体制づくりを進めていきます。

## 受け入れに向けた来日前からの準備

受け入れにあたっては、看護師長会を中心に「外国人看護補助者活用推進グループ」を立ち上げ、人事課の担当者と協働して体制整備を進めました。先行して外国人材を受け入れている施設を見学し、準備の進め方や課題について情報収集を行いました。そこでは現場ス

タッフとの交流を通じて、「やさしい日本語」で十分にコミュニケーションが可能であることも確認でき、不安は軽減し受け入れへの期待が高まりました。  
私たちが特に大切にしたのは、「生活支援」「業務支援」「職員の理解促進」の3つの視点です。  
まずは、生活支援が適切にできるよう住居や通勤経路を実際に確認しました。必要な家具家電なども多くの職員のご厚意によってリユース提供を申し出いただき、歓迎の気持ちを感じながら、来日後すぐに安全で安心して生活できるように環境を整えました。  
業務支援としては、業務マニュアルにルビ(ふりがな)を付けたり、翻訳アプリを導入したりするなど、言語面で困惑することがないように努めました。また、接遇などの社会人としての基礎から日常生活援助業務まで、段階的に学べるよう教育プログラムを構築しました。  
さらに、共に働く職員への理解促進にも努めました。各部署の先輩看護助手の中からサポート担当者「ミャンサポさん」を任命し、事前研修を実施しました。また、登録支援機関の協力のもと、文化の違いや関わり方について

歓迎会にて  
早速家族に写真を  
送った方も



学ぶ機会を設けました。他職種含む全職員向けの説明会も行い、院内全体で受け入れる雰囲気を高めました。

## 入職後の教育プログラムの工夫と 職場に馴染める取り組み

このように心待ちにしていたところ、ミャンマー国内の情勢の影響により当初予定より遅れが生じ、2026年1月の入職となりました。8名ともWeb面接時よりもさらに日本語が上達している印象で、目的を持って努力を続けてきたことがわかり、胸が熱くなりました。  
教育プログラムの工夫として、院内で活躍する認定看護師や多職種の協力を得て、業務習得に必要な知識・技術を幅広く学び、部門を超えた多くの職員と関わる機会を用意しました。翻訳教材やアプリを活用しながら、演習を中心に感染管理や医療安全、コミュニケーションの方法まで丁寧な指導を心がけました。  
入職後の2週間はオリエンテーションと研修を行い、文化や習慣を確認しながら、日常生活援助を中心とした業務習得を支援してきました。2月からは4つの部署に2名ずつ配置し、実際の業務を開始しました。業務の習得状況を記録する「経験録」を活用し、本人とサポート担当者「ミャンサポさん」とが定期的に振り返ることで、自信の形成と周囲の理解促進を図っています。

業務指示をよく聞いて  
動きます



また、歓迎会や交流の場を設けました。歓迎会では8名が作ってくれた動画メッセージも紹介されコミュニケーション能力の高さに感心しました。「毎日の仕事が楽しい」「もっと働きたい」といった前向きな声も聞かれ、院内に明るい雰囲気をもたらしています。多様性への理解が深まると互いに支え合う職場づくりにつながると期待しています。今後は各部署での経験を積みながら、さらなる活躍と配置の拡大も視野に入れています。

## 仲間を迎えて踏み出した新たな一歩

海の向こうの遠い国から私たちのもとへ来てくれた8名に、心から感謝しています。言葉や文化の違いを越えて新しい環境に挑戦する姿は、私たちに多くの気づきを与えてくれています。今回の取り組みは、人手不足への対応にとどまらず、組織の成長にもつながっています。私たちの「当たり前」を見直し、より良い医療やケアを考えるきっかけにもなっています。あらためて思うことですが、違いがあるからこそ、組織はより強く、しなやかになれるのではないのでしょうか。多様性を力に変えながら、ひとりひとりの職員がそれぞれの力を活かし、これからも前橋赤十字病院は「みんなにとってやさしい、頼りになる病院」を目指してまいります。

術後のベッドの  
準備をします



### MESSAGE

#### 新しい経験を求めて、 日本へ

私は新しい経験をたくて日本にきました。日本の生活や高い技術に魅力を感じ、学びたいと思ったからです。仕事で嬉しいのは、看護師さんや患者さんから「ありがとう」と言われたときです。一方で、顔と名前を覚えることには苦労しています。今後は他の病棟の仕事も覚えてできることを増やしたいです。将来はITの勉強にも興味があります。職場は優しい人が多く、安心して働けています。休みの日には旅行も楽しみたいです。(Pさん)



#### 「できること」を増やし、 介護福祉士へ

私は高校卒業後に大学へ進学しましたが、ミャンマーの情勢により中退し、日本語の勉強を始めました。その後、外国で働きたいと思い、再び学び直して来日しました。自分の優しい性格に合っていると感じ、看護助手の仕事を選びました。患者さんと話す時間が楽しく、安心してもらえるよう言葉を工夫しています。名前を覚えることが難しいですが、できることを増やして、将来は介護福祉士の資格を取得して長く働きたいです。休日は登山にも挑戦したいです。(Tさん)



theme:  
「心」の急病を支える：  
精神疾患と  
救急医療の架け橋

高度救命救急センター長  
集中治療科・救急科部長  
中村 光伸



救急車が駆けつける現場。そこにあるのは、出血や骨折、突然の胸の痛みといった「目に見える症状」だけではありません。激しい興奮、強い自傷念慮、あるいは精神症状に伴う身体の不調など、「心の危機」もまた、一刻を争う救急医療の対象です。しかし、精神疾患が関わる救急現場では、患者さん自身やご家族、そして駆けつける救急隊員や受け入れ先の医療従事者の間で、戸惑いや不安が生じやすいのが現状です。

なぜ「精神科救急」は難しいのか

精神疾患を抱える方が身体的な急病に見舞われた際、あるいは精神症状そのものが悪化した際、以下のような課題に直面することがあります。

【患者さんご家族】「精神科の持病があるから、一般の救急車を呼んでいいのだろうか」「冷たく対応されないだろうか」という不安。

【救急隊員】身体的な重症度だけでなく、本人の興奮状態や自傷のリスクをどう評価し、どの病院へ搬送すべきかという判断の難しさ。

【医療従事者】精神症状の背後に隠れた「命に関わる身体疾患」を見落とさないための評価と、安全な診療環境の確保。

こうした「心のケア」と「身体のケア」の隙間を埋めるために、今、救急医療の現場で注目されているのがPEEC(精神科救急初期対応コース)です。

PEECは、救急外来や現場で精神症状を呈する患者さんに適切に対応するための研修プログラムです。

このコースの大きな特徴は、精神科医だけでなく、一般の救急医、看護師、そして救急隊員など、精神科を専門としないスタッフを対象としている点にあります。

【見逃さない】精神症状のように見えても、実は脳炎や薬物中毒など、身体的な原因がある場合があります。PEECでは、まず「命の危険」を最優先で評価します。

【安全を守る】患者さんも医療者も傷つかないように、心理的な安全性と物理的な安全を確保する具体的な手法を学びます。

【連携する】消防、身体救急、精神科救急が同じ指標で評価を行うことで、スムーズなバトンタッチを可能にします。

私たちにできること

精神疾患は、誰にでも起こりうる特別なことではありません。もし、あなたの大切な人が、あるいはあなた自身が、心のコントロールを失い、命の危険を感じるような事態になったら、迷わず助けを求めてください。

【一般市民・ご家族の方へ】精神的な混乱も、立派な「救急」です。現在の状況を落ち着いて伝え、公的な助け(119番や相談窓口)を利用してください。

【救急・医療関係者の方へ】PEECなどの研修を通じて、精神疾患への理解とスキルを深めることは、より質の高い、偏見のない医療への第一歩となります。

それが、これからの救急医療が目指す姿です。病院、消防、そして地域がつながることで、「体も、心も、等しく救う。」を実現させましょう。



PEECについて  
「日本臨床救急医学会」  
<https://jsem.me/training/peec.html>



健康学  
Health science  
第22回  
アスパラガス

【新】年度が始まる4月は、生活環境の変化による緊張やストレスから、自律神経が乱れやすい時期です。また、日中の暖かさと朝晩の冷え込みという寒暖差により、身体のだるさや食欲不振を感じることも少なくありません。この時期は、新陳代謝をスムーズにし、疲労回復を助ける栄養素を意識して摂りましょう。

4月から5月にかけて旬を迎えるアスパラガスには、その名の由来にもなったアスパラギン酸というアミノ酸が豊富に含まれています。アスパラギン酸は、エネルギー代謝を促して疲労に対する抵抗力を高める働きがあり、新しい環境で疲れが溜まりやすいこの時期にぴったりの栄養素です。

また、穂先の部分にはルチンというポリフェノールの一種が含まれています。ルチンは毛細血管を丈夫にする働きがあり、血流を整える効果が期待できます。さらに、アスパラガスは低エネルギー密度食品の代表格です。水分が多く、重量のわりにカロリーが低いので、ダイエットや体重管理を意識している方でも満足感をしやすい食材です。

おすすめ簡単レシピ

アスパラとあさりのバター蒸し

あさりに含まれる鉄分とアスパラガスのビタミンを組み合わせた、春らしい一品です。

〈材 料〉【2人前】アスパラガス…1束(4~5本) / あさり(砂抜き済み)…150g / 酒…大さじ2 / バター…10g / 醤油…小さじ1/2

〈作 り 方〉①アスパラガスは根元の硬い部分を切り落とし、下のほうの皮をピーラーで薄く剥いてから、4cmの長さの斜め切りにします。②フライパンにアスパラガス、あさり、酒を入れて蓋をし、中火にかけます。③あさりの口が開いたらバターと醤油を加え、全体をさっと混ぜ合わせたら出来上がりです。

〈ひと工夫〉アスパラガスを鮮やかな緑色に仕上げるには短時間で蒸し上げる必要があります。短時間の加熱はアスパラギン酸などの栄養素の損失を抑え、シャキシャキとした食感を楽しむことができます。



## 退任のご挨拶



副院長 松尾 康滋

前橋赤十字病院に受診・入院されている患者さんご家族の皆さま、当院の診療を支えてくださっている院外の医療・介護関係者の皆さま、そして院内の職員の皆さん。2020年4月から本年3月まで副院長として勤務しておりました松尾康滋です。在職中は多くの方々に支えていただき、心より御礼申し上げます。退任にあたり、感謝を込めてこれまでを少し振り返らせていただきます。

私が副院長となった2020年は、ちょうどCOVID-19のパンデミックが始まった年でした。当院もその渦中にあり、関係各病棟をはじめ病院全体で職種を越えて対応にあたった日々は、今も昨日のこのように思い出されます。

私に与えられた主な役割は医療安全と医療倫理でした。医療安全については15年以上前から学会や多職種の勉強会に参加し、医療安全管理者養成講習やタスクフォース活動などを通して学びを重ねてきました。その過程で実感したのは、医療の質を高めるためには学び続ける姿勢と、相手を大切にコミュニケーションが何より重要であるということでした。

医療倫理では、2018年から臨床倫理コンサルテーションの活動を通して、困難な状況に置かれた患者さんに対し、多職種で議論しながらより良い医療が提供できるよう現場を支えてきました。こうした仕事は、人と向き合い、対話を重ねながら進めていくものです。私は必要な場には必ず自分から足を運び、院内外を問わず患者さんや医療者のもとへ出向くことを心がけてきました。少し変わった方法かもしれませんが、「大阪のおばちゃん」に学び、誰にでも気軽に声をかけ、懐に飛び込めるようにすることを自分なりの流儀としてきました（さすがに鉛ちゃんは配りませんでしたが）。廊下やエレベーターで突然声をかけ、驚かれた方もいらっしゃったかもしれません。この場を借りて種明かしとともにお詫び申し上げます。

そして現場では、患者さんによし、医療者によし、社会にもよしと受け止めていただける「三方よし」を常に心に置き、行動してきました。

診療面では小児泌尿器分野を中心とした泌尿器科診療が私のライフワークでした。2025年には標榜科名を泌尿器科・小児泌尿器科と改めることができました。今後は後進たちがその役割を担い、診療を続けてくれることと思います。

医療安全、医療倫理、そして診療のいずれも、患者さんやご家族のご理解と、スタッフの支えがあってこそ続けることができました。改めて心より感謝申し上げます。前橋赤十字病院のさらなる発展を祈念し、退任のご挨拶といたします。

## 退任のご挨拶



薬剤部長 小林 敦

この度、定年を迎え、34年間にわたる前橋赤十字病院での勤務を終えることとなりました。2015年より薬剤部長を拝命し、この大役を全うできましたのもひとえに諸先輩方、そして苦楽をともにしたスタッフの皆様のご支援があったからこそと、心より感謝申し上げます。

入職当時は手書きの処方箋が当たり前でしたが、今では電子カルテや全自動錠剤分包機やアンプルピッカーが導入され、さらにはAIが医療の分野にも大きな影響を与えています。医薬分業を推奨し、病院の薬剤師は病棟で入院患者さんに服薬指導をする、薬剤師の業務は「調剤」から「病棟でのチーム医療」へと大きく進化しました。医薬品の適正使用を目指し、「薬あるところに薬剤師あり」を合い言葉に“物を見る薬剤師から人を見る薬剤師”に大きく転換したこの激動の時代を当院の一員として歩めたことは、私の誇りです。

また、他職種の皆様との連携がいかに大切かを痛感する毎日でした。医師、看護師、メディカルスタッフ、事務部門の皆様と協力し、患者さんのために知恵を出し合った日々は、私にとってかけがえのない財産です。

4月からは一線を退きますが、当院の薬剤師がこれからも患者さんに寄り添い、安全で質の高い医療を提供し続けられることを、心より応援しております。当院の更なる発展と、皆様のご多幸を祈念いたしまして退職のご挨拶とさせていただきます。

長い間、本当にありがとうございました。

# 十 | 字 | 路

## ひとを知る、わたしを知る

私たちが当たり前に使っている名字ですが、ミャンマーには名字がないことをご存じでしたか。

世界の大部分(約9割)の国に「名字(姓)」は存在しますが、名字のある日本、中国、韓国、ハンガリーなど「姓・名」の順(姓が先)の国や、アメリカ、欧州など「名・姓」の順(姓が後)の国があります。アメリカは150万種類以上、日本には約30万種類の姓が存在し、国や文化により多様な命名ルールがあります。

他国人種の集まるアメリカで名字が多いのはわかりませんが、日本でこれほど多くの名字があるのはなぜでしょうか。調べてみると明治時代からの「姓の普及政策」で新たに名字を考えなければならなかったことや山の多い自然地形によって地域が分断され独自の名字が発展したことがあげられます。もうひとつの特徴として旧暦や季節、文化を意識した日本ならではの理由があります。

日本人には家族や組織という集団の中で自分という存在を認識する傾向がありますが、ミャンマーの7割を占めるビルマ民族には集団ではなく「私」と「相手」の2者間での関係を大事にします。家系や血筋は父方・母方を等しく扱うという社会システムにあり、「家」の概念が薄く、個人名だけで識別するため、人は父や子の名前を引き継がず、親子でも名前が共通しません。名字のある私たちからすると各種登録や決済

など社会的に面倒なことが多いのではないかと思います。ミャンマーの方々の「人は平等」、「個人を尊重する」、「どこにも属さない自分をもつ」という個人主義、平等主義、隷属をしない、国の思想はうらやましくもあります。

今回、ミャンマーから看護助手さんを迎えるにあたり文化を学ぶ機会を得ましたが、この機会がなければ積極的にミャンマーの文化を調べることも、日本の名字がこれほど多い理由もわかりえなかったでしょう。名字ひとつにしても様々な理由、文化があり、お互いの考えや文化を尊重しあう関係を築けるのが理想ですが、いつもどこかで戦火が起き、世代を超えて人と社会をさいなみ続ける現況はいつまで続くのでしょうか。

(塚越 貴子)



### 「理念」と「基本方針」

#### 理念

みんなにとってやさしい、  
頼りになる病院

#### 基本方針

1. 自分や家族がかかりたい病院となる
2. 社会に必要とされる病院となる
3. 職員が働きたい病院となる
4. 経営が安定している病院となる

 **日本赤十字社** 前橋赤十字病院  
Japanese Red Cross Society

〒371-0811 前橋市朝倉町389番地1  
Tel.027-265-3333 Fax.027-225-5250  
e-mail:maeseeki@maebashi.jrc.or.jp

編集:前橋赤十字病院広報委員会  
発行責任者:事務部長 太田 吉保

最新の情報につきましてはホームページをご覧ください。

<http://www.maebashi.jrc.or.jp>

- 診療受付/午前8時30分～午前11時
- 診療開始/午前9時
- 休 診 日/土曜日・日曜日・祝日  
年末年始(12/29～1/3)・創立記念日(3/23)

◎広報・ホームページに関するご意見ご感想がありましたらお知らせください。

